

稲作だより

第 9 号
出穂
登熟向上編

平成 22 年 8 月 3 日発行
新・米づくりやまがた日本一運動
最上総合支庁農業技術普及課
Tel 29-1333(稲作担当)

出穂早まる！高温注意！適切な水管理を行ないましょう

7 月中の高温により（平年比 + 2.4℃）、出穂は 4 日程度早くなっています。
8 月前半は気温がかなり高い日が続く見込みで、高温により品質への影響が懸念されます。適切な水管理により、暑さに負けない米づくりを実践しましょう。
また、出穂期に応じて病害虫の防除時期を早め、遅れないよう徹底しましょう。

品種名	地帯	出穂予想日	平年の出穂期
あきたこまち	中山間～山間	7 月 31 日～ 8 月 3 日	8 月 5 日～ 8 日
ひとめぼれ	平坦	8 月 3 日	8 月 6 日
はえぬき	平坦	8 月 4 日	8 月 7 日
つや姫	平坦	8 月 10 日	8 月 14 日
コシヒカリ	平坦	8 月 12 日	8 月 15 日
ヒメノモチ	平坦～中山間	7 月 28 日～ 31 日	7 月 31 日～ 8 月 3 日



作柄・品質向上のための水管理

特に登熟初期の高温により、白未熟粒や胴割れ粒の発生による品質低下が懸念されるため、気象条件に合わせて、細やかな水管理を行いましょう。

1. 出穂が始まったら湛水し 2～5 cm の水深を保ちます。出穂・開花期はイネが最も水を必要とする時期です。
2. 穂揃（ほぞろい）期以降は間断かんがい（2 湛 2 落）に戻します。
出穂期から数えて最低 30 日間は継続し、落水しないように！
3. フェーン現象による一時的乾燥高温、また台風が予想される場合は、湛水して稲体を保護します。

高温が続く場合、用水が十分に確保できる地域については「用水かけ流し管理」や「夜間かんがい・昼間飽水管理」に切り替え、水田の温度上昇を防ぎましょう。
一般的に出穂後 20 日間の平均気温 26～27℃ 以上で白未熟粒の発生が増加し、出穂後 10 日間の最高気温が高いほど、胴割れ粒の発生が増加すると言われています。

穂いもち防除も遅れずに

管内では7月9日頃から葉いもちの発生が目立っており、一部上位葉への進展が見られています。出穂時期が早まっているため、防除時期を早め、遅れず対応しましょう。

1. 穂いもちの薬剤防除は、出穂直前、穂揃期の2回が基本です。
2. 上位葉に葉いもちが発生しているほ場では、穂揃期散布の7日後にも追加防除を実施しましょう。

カスガイシンを含む剤は、農薬登録内容の変更により、穂揃期までの使用となりましたので注意してください。

カメムシ対策は万全ですか？

水田のすくい取り調査(7/26、病害虫防除所)では、確認地点率、虫数共にやや高くなっています(下図参照)。適期を逃さず、計画的に防除を行いましょう。

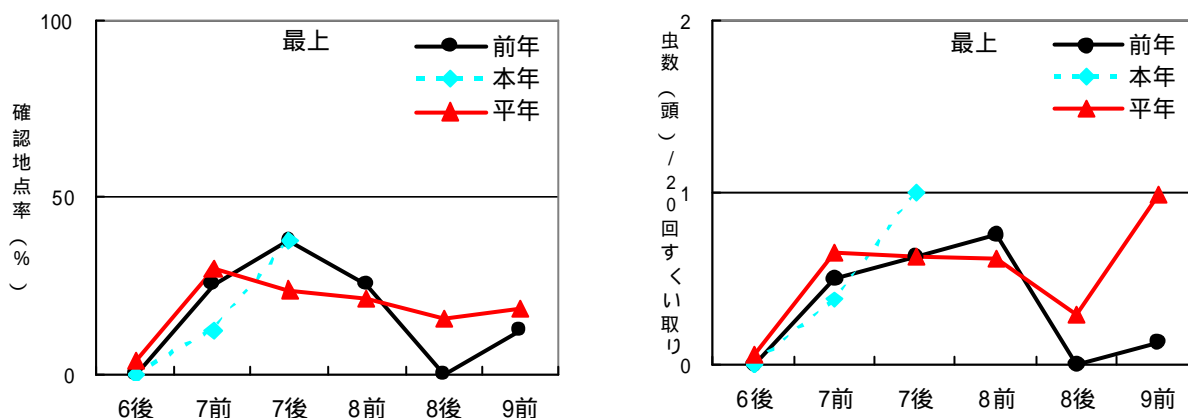


図.水田内でのアヒゲホミドリカメムシ発生状況

1. 防除時期は 穂揃期、及び その7～10日後の2回です。
その後も発生が多い場合はさらに7～10日後に補完防除を行いましょう。
2. これからの草刈りは、カメムシを田んぼに追いやることになるので、実施する場合は薬剤散布の直前に地域一斉で実施しましょう。

イネアオムシの発生が多くなっています

7月下旬より、第2回目の発生時期となっています。止葉まで食害が多発するほ場では速やかに効果的な薬剤で防除しましょう。

農作業中の熱中症に注意しましょう！

今年は、気温が高い状況が続いており、全国では、農作業中に熱中症による死亡事故も発生しています。日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う、休憩をこまめにする、水分を十分に補給する、など十分に注意しましょう。